



# キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2014年3月 Vol. 8

## Kinky Shot! - 今月のキサンガニ -

### コンゴ民第3の都市☆キサンガニへようこそ



キサンガニ市街の様子。ここ数年でバイクが増えた。

キサンガニ。コンゴ民はオリエンタル(東部)州の州都。コンゴ川沿いのコンゴ民第3の都市。そう聞いたときは、正直耳を疑った。「ほんと？第3なの？舗装道路、殆どないの？」

舗装道路なんぞなくとも、キサンガニには他の都市にはない魅力が盛りだくさん(たぶん)。今月号は、そんなキサンガニの溢れんばかりの魅力をご紹介します♪いつの日か、「魅惑のコンゴ河ツアー(注)」でキンシャサからキサンガニ、さらにその先へ旅することを夢見ている人は多いはず(?)

(注:現状では椅子に座った状態で約1~2週間、もれなく各所での嫌がらせ付きですので、お勧めしません。)

## ロシアン・ルーレットな旅を…!

## Kinky Life! - キサンガニで生き

そんなキサンガニは、その昔、カビラ(父)が当時のモツツ大統領を打倒すべく東からキンシャサに向けて進軍した際に駐留、約1,700キロという距離をもとせせず、あっという間に首都陥落を達成する支えとなった戦略的な都市。今でも「キサンガニが落ちたら、キンシャサが落ちる」と言われている。

「素敵☆そんなキサンガニにはどうやったら行けるの?」というコアな皆様には申し訳ないですが、首都キンシャサからキサンガニへの移動手段は「川」か「空」。しつこいようですが道路、ないので(涙)。川の移動は忍耐と体力と度胸と運とお金と人脈と交渉力と…色々なものが必要なもので、決してお勧めしません。かといって「空」もいつ落ちるかわからない民間商用機か、これまた「落ちて死んでも文句言いません」と署名して搭乗する国連機(要:出張命令書)しかありません。ちなみに国連機も落ちたこと、あるんだな…。

でもそこはやっぱり第3の都市。注文したら食事が出てくるレストラン(地方都市には意外と無い)、水・電気・インターネットが揃ったホテル(これもまた地方都市には少ない)がちゃんとあります。今は状況も落ち着いており、都市ながらどことなくのんびりした人々や町の様子に癒されます。キンシャサの喧騒に疲れたら、思い切ってキサンガニへ!(って言いたいところですがアクセスがねえ…究極の運試しですから。)



↑国連機。離陸前にお祈りの声が聞こえることも…。



→  
こじゃれたホテル  
手前の木は  
フェイク(笑)

## Eat Kin! - キサンガニで食べる-

### キサンガニと言えは?!



☆パイナップル屋台☆  
大きさによって1個3,000フラン(約3ドル)~

散々なイメージのキサンガニだが(笑)、それでも一旦辿りつけば、そこは魚がおいしく、パイナップルがとてつもなく甘い、川沿いリゾート☆リゾートの定義はさておき(←おや?), 冗談抜きにキサンガニの魚はコンゴ民の人々にも有名。それもそのはず、キサンガニはコンゴ河に円錐形の籠をしかけて魚をとる昔ながらの漁法が今でも行われており、ちょっとした観光名所にもなっている。よく土産に魚をねだられるが、実際に小魚を一匹ずつ鞆から落としながらキンシャサ行きの飛行機へ向かう人を見た(当然、取り上げられ、ぐるぐる巻きにされて預入荷物に。)そんなにしてまで?とその光景が未だに忘れられない…。

魚の次におねだりされるキサンガニの名産品がパイナップル。別に他の州でもあるのだが、やっぱりキサンガニのものが美味しいともっぱらの評判。売っている道沿いの屋台(?)もユニーク。唯一の難点は葉っぱ(なのか?)の部分がかさばり、荷物検査で怪しまれること。一度、2個買ったら鞆に入りきらず、一つはそのままの姿で機内持ち込み。相当恥ずかしい上に、葉っぱがトキトキして痛かった。でも、その苦勞をもともしない美味しさ!是非お試しあれ…と気軽に言えないのが悲しいところ。

もうここに来るのも慣れたなあ。警察庁の建物を見上げる。意を決して長官の部屋へ。「お詫びしたくて来てもらいました。」…へ？長官は穏やかに続ける。「開講式にも閉講式にも自分が参加できず、大変申し訳ない。JICAが最も信頼するパートナーであることはこれまでもこれからも変わらない。いつか警察自身が研修を実施できるようになるよう、引き続き協力して欲しい。」

国家警察民主化研修は、JICAコンゴ民事務所の歴史とともにある。事務所開設前の2004年度から南アフリカ事務所の管轄で実施され、以降、治安部門改革を最優先とするコンゴ民政府に寄り添うように、JICAは警察改革に必要な研修実施を支援してきた。今年その歴史は10年という節目を迎える。

現在、東部情勢は急展開をみせており、反政府武装勢力が撤退した後のパワーバキューム(権力の空白)を、国家の治安維持を担う国家警察が迅速かつ適切に担うことができなければ、情勢はまた不安定化する。今、この瞬間、国の将来を担っているのは国家警察であると言っても過言ではない。

着任当時、警察を相手に仕事をしている、と言うと他ドナー関係者から同情された。「それは大変ですね…」ええ、もう大変どころじゃないです、と涙ながらに答えていたのは昔の話。「警察ほど一緒に仕事をしていて楽しいパートナーはいませんよ」と最近答えていることは、なんだか悔しいので警察には離任まで言わないつもりだ。(終わり)



所長交代時の長官表敬。左から2番目が筆者。

連載のご愛読ありがとうございました！  
今後もコンゴの愛すべき警察をどうぞ宜しく☆



質問のスコールを浴びせるシレウ氏と軽く流す惣慶専門家のコントラスト。



コンゴ民で「KOSHIHIKARI」! ?

## コンゴの米事情

「コンゴ民を耕せば10億人が食べれる」という当地CMでお馴染みの農業セクター(うそ)。世界第二位の耕作可能地(7500万ha)を誇り、サフサハラアフリカの水資源の半分以上はこの国にあると言われる。しかし膨大なポテンシャルを眠らせたまま、長らく食糧輸入大国の地位に甘んじてきた。

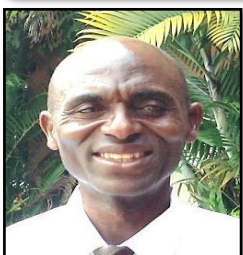
そんなコンゴ民の農業開発のために「日本に何ができる?」、「コメでしょ!(キンシャサでうまいコシヒカリが食べたい!)」ということで、2月にアフリカ稲作支援のエキスパート・惣慶専門家がカメルーンからキンシャサに降り立った。迎えるはJICA帰国研修員シレウ氏ほか農業省の面々。彼は昨年JICA研修で来日しており、日本での研修で学んだことを活かし、この土地に合った品種選定のための試験栽培をしているのだ。

ライフルを持った軍人が一人警備に付きつつ、初めての圃場見学にウキウキで到着。設備はボロボロながら、なんとか灌漑稲作をやっている。「うんうん、なかなかちゃんと稲作やってるじゃん」と思いつつ、ふと見ると何やら白いネット(左写真上)。シレウ氏の試験栽培だ。と、そこで取材班が見たものは!なんとコシヒカリ!!

今回の惣慶専門家の調査結果を基に、コンゴ民でも稲作協力を始めていく予定だ。いつの日か、キンシャサ産コシヒカリで腹いっぱいお茶漬けが食べられるかもしれない! ?

## コン月のイベント

### 愛すべき?コンゴ人



所属: 農業省  
国家コマプログラム  
氏名: シレウ・イルンガ

農業省で稲作開発に従事する帰国研修員。日本で学んだ成果を实践すべく、週6日でキンシャサ周辺の水田に通うとのこと(ホントか?)。

惣慶専門家訪問時には、ここぞとばかりに質問の嵐を浴びせた。日々現場に通い、悪戦苦闘しながらもコメ開発に取り組む彼は、JICAにとって重要なカウンターパートであり、まさに「愛すべきコンゴ人」である。

### 編集後記

<☆今月のリンガラ語☆>「ナザリ・モンゼンバ」アンケートへのご協力、また、貴重なご意見、ありがとうございました! 全てを反映することは紙面の制約上叶いませんが、可能な限り頑張りたいと思います。

まずは今月のリンガラ語コーナーから! これを言えばコンゴ人のハート驚掴み、間違いなしですよ! 意味が気になる人は次号も読んでね~♪♪♪

さて、次号もおそらく元気にキンシャサを飛び出し、魅惑のあの都市へ…! お楽しみに☆